令和８年度 グリーンスローモビリティ実証実験_大谷口地区振り返り会
議事要旨

■日時：令和 8 年 10 月 14 日（水）15 時 00 分～

■場所：細野自治会館

■出欠：参加者 16 名（細野自治協力会 10 名、周辺自治会 3 名、その他関係者 3 名）

■次第

１．開会挨拶
２．速報値報告
３．運行準備ついて（ヒアリング）
４．運行内容について（ヒアリング）
５．今後について
６．閉会挨拶

■配布資料

次第

■議事要旨

■議題

（1）速報値報告ついて

・期間中の合計利用者数は 132 名（1 日最大 24 名、1 日平均 14.7 名）

・乗降場所としては自治会館が最も多く、次いでサミット、ビッグエーなどスーパーの利用となった。

（2）ワークショップついて

・停留所やコースの設定には時間を要するため、最低4回程度の実施が理想。

・平日日中の開催の場合、仕事で参加が難しいため、平日夜や土日の開催であれば参加しやすい。

（3）周知ついて

・車両を走行している様子や口コミで周知が広がったため、取組みを継続すると周知拡大に繋がる。

（4）講習会ついて

・運転手講習会ではもう少し実技の時間を確保してほしかった。体験してもらうことが重要。

（5）運行内容ついて

（ルート、ダイヤ設定）

・遊歩道辺りまで運行ルートを拡大すれば、他の自治会の利用者も使いやすくなる。

・北側ルートを高頻度で周遊するなど、往復で利用しやすいダイヤ設定が望ましい。1時間に1本では時間がかかりすぎてしまう。

・毎時定刻のダイヤ設定は分かりやすかった。

・運行スタッフを午前と午後で変更するのであれば昼休憩を設定しないダイヤも検討すべき。

・コミバスのダイヤは配慮されていたが、路線バス（坊の在家、本村）のダイヤも配慮してほしかった。（一方、20 分に 1 本程度の運行頻度のため待ち時間は気にならないという意見もあり）

・交通状況等による所要時間の影響を確認するため、ダイヤを設定する際はグリスロを試走すると良い。

・今後継続的に運行することで、運行ダイヤに合わせた利用が進むと思う。

（運転手・地域サポーター）

・停留所での時間調整の待ち時間が長かった。1時間あたり 15 分程度の休憩で十分。

・初日は様々なことに気を使ったが、数回担当すると慣れてきて楽しかった。

・短期間で週1、2回程度であれば疲労感は少ないが、長期間の実施では義務感が強くなり、負担が大きい。負担が大きい作業をボランティアで賄うのには限界がある。

・ボランティアで参加しているのにも関わらず、事故発生時に免責を負担しなければいけない点は不満。本格運行をする際は大きなハードルとなる。

・シルバー人材センターの活用なども検討すべきではあるが、運賃有料化をしても定員5名では収入に限界があるため、運行スタッフを委託する費用を賄うことができない。

・若者に担ってもらうためにはきっかけが必要。

・高齢女性がサポーターとして乗車する場合、2便の乗車であれば負担感は少ないが、3便となると負担が大きい。真夏や真冬での運行では更に条件が厳しくなる。

・地元として協力するメリットがあればスタッフ参加の賛同を得やすい。

（運行管理者）

・運行管理者は緊急時の対応もあるため負担が大きい。人に頼みにくい。

・工事による通行止めがある場合、運行ルートを変更する必要があるため、市の方で事前に把握してほしい。

（利用者）

・グリスロの現在位置や乗車人数が利用者側で確認できると利便性が向上する。

（車両）

・サイドの扉、シートベルト、ハザードランプ、避雷針等があると安全に利用できる。

・左ハンドルは運転しにくい。

（その他）

・有意義な実証実験であった。

・車内にスーパーのチラシを配架していたため、新聞を定期購読していない方には好評だった。

■今後の課題等

・運行頻度や往復利用に配慮したダイヤやルート設定の検討。

・路線バスとの接続をする際は利用者が許容できる待ち時間の設定。

・講習会は理解の深度化を図るため、実技時間を確保。

・長期運行を行う場合、ボランティアでは義務感が強くなるため、スタッフの確保が課題。

・事故発生時の責任の在り方など、スタッフが納得・参加しやすい条件設定が必要。

・共助の取り組みには様々な課題があることを確認できたため、移動手段の確保として、グリスロ以外の対策を含めた検討が必要。